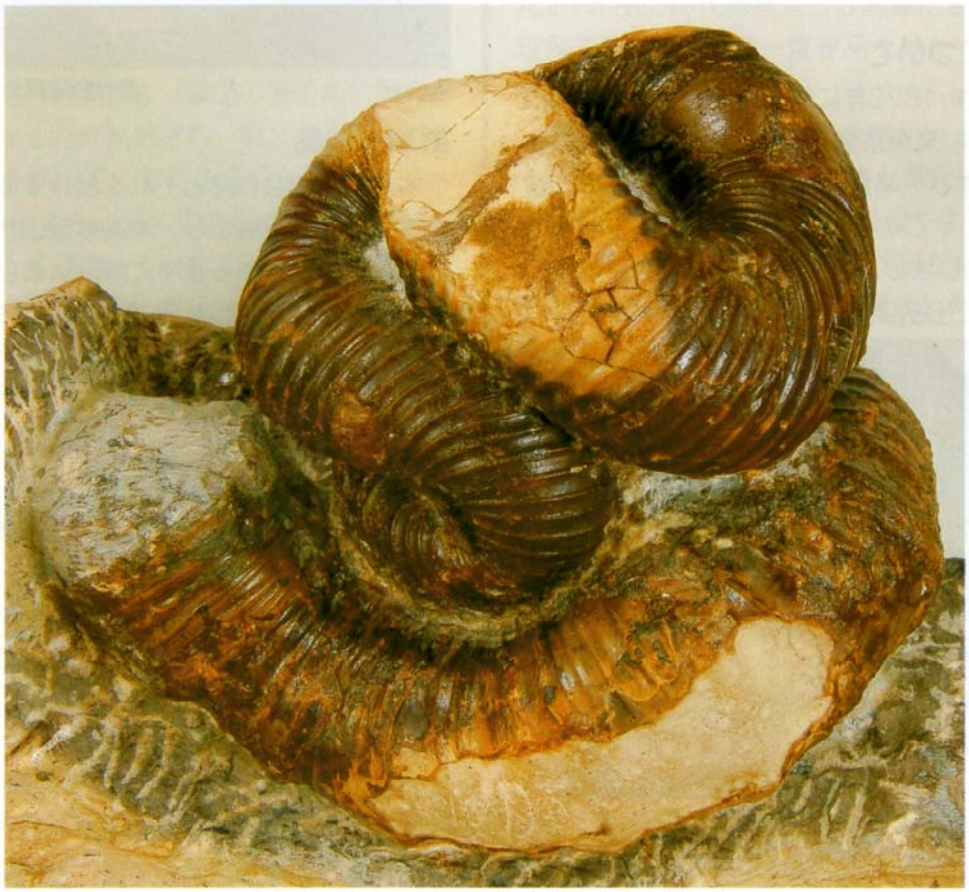
苫小牧市 博物館だより

2009.3
No.58



ニッポニテス・ミラビリス（北海道化石会所蔵）

平成21年度　企画展

アンモナイト ～そのふしぎと魅力～

期間：平成21年４月25日(土)～ ６月７日(日)
会場：苫小牧市博物館　特別展示室

北海道から産出する化石の中で、子供たちによく知られているアンモナイト。大昔に暮らしていたこのふしぎな生き物について、彼らの生活を想像しながら、その面白さと魅力を紹介します。なぜ北海道のアンモナイトは美しいのか…化石が語るふしぎな世界に是非足を運んでみてください。

苫小牧市制60周年記念美術展

出光美術館コレクション『板谷波山展』

平成20年9月27日(土)～11月3日(月)

苫小牧市制60周年を記念して、20世紀を代表する陶芸家である板谷波山の作品展を開催しました。展示された作品は出光美術館が所蔵している板谷波山コレクションの作品44点と、約100点の素描で、いずれも道内初公開となりました。

板谷波山について

板谷波山は、1872年に茨城県で生まれました。東京美術学校(現東京藝術大学)では高村光雲のもとで彫刻を学び、卒業後は美術教師を経て陶芸家として独立し、この頃に郷里の筑波山にちなんで「波山」と号しました。1906年に初窯の作品を日本美術協会に出品して高い評価を受け、その後の展覧会でも入賞を重ね、1953年には陶芸家として初の文化勲章を受章しています。2002年には「葆光彩磁珍果文花瓶」が近現代陶芸作品として初めて、国の重要文化財の指定を受けました。

波山陶芸の特徴

波山陶芸の特徴は、東洋古陶磁の厳格な形を土台とした気品漂う造形にあります。また、西欧19世紀末のアール・ヌーヴォー様式や、アールデコ様式に影響を受けており、その装飾性も魅力のひとつです。波山は出光美術館の創設者である出光佐三氏と親交が深く、波山が「難がある」として処分しようとしていた作品を佐三氏が懸命に頼んで譲ってもらったという逸話があります。本展で展示された「天目茶碗 銘命乞い」はその中のひとつです。この二人の関係から、出光美術館には数多くの波山作品が集められるばかりでなく、素描約2,200枚が収められました。

葆光彩磁呉州模様鉢　兎図

展示と作品

本展では陶芸作品とそれを制作する際に描かれた素描を同時に展示し、崇高な波山作品が完成する過程が理解できるように展示しました。素描の中には、自分を刺したアブをスケッチしているものがあり、波山の身近な自然への思いが感じられます。また、波山作品の変遷を「四季の草花」「アール・ヌーヴォーとの出会い」「寿の意匠」「更紗の意匠」「中国官窯磁器へのあこがれ」「波山の素描」の各コーナーで紹介しました。会場には「彩磁葡萄文花瓶」(1914年)などのアール・ヌーヴォー風の作品をはじめ、「葆光」と呼ばれる薄いベールをかぶせたような波山独特の技法が用いられている「葆光彩磁草花文花瓶」(1929年)、昭和天皇のご成婚に際して制作した「彩磁瑞花鳳凰文様花瓶」(1923年)などの代表作が並びました。

初日のオープニングセレモニーのあと、会場では出光美術館の金沢陽学芸員による展示解説が行われました。会期中は約4,000名の来館者が訪れ、波山の気品漂う造形や繊細で優美な色調を放つ作品の魅力に見入っていました。

「板谷波山展」関連行事

記念講演会

10月11日波山研究の第一人者で、学習院大学教授の荒川正明氏を講師に招き、「板谷波山―その人と芸術」と題した講演会を当館講堂で開催しました。荒川教授は波山が東京美術学校で木彫を学んだことに触れ、「陶芸家となってからのデッサンや表現技法に影響を与えた」と解説しました。講演会終了後は荒川教授による作品と素描の解説会が行われ、波山作品の特徴や作風の変遷についての説明がありました。

また、当日は東京より波山の孫にあたられる村田あき子さんが来館され、祖父である波山との思い出を語っていただきました。「亡くなって45年経っても、多くの方に作品を見ていただけることに感謝しています」との言葉に、会場は感動に包まれました。

映画「HAZAN」上映会

会期中の土曜日及び日曜日に波山の作品の魅力をより一層感じてもらうために、映画「HAZAN」(2003年桜映画社製作)を上映しました。この映画は、芸術家として認められるまでの板谷波山の生涯を映画化したもので、今回出品された作品が作られた様子や、波山と出光佐三氏の交流に関するエピソードも登場しました。「作品の時代背景などが映像によってよく理解できた。」「もう一度作品を見たくなった」など大変好評でした。

会期の終盤には上映回数を増やし、事前上映も含めて述べ23回650名の方が鑑賞しました。また、この映画で波山を演じた榎木孝明氏から、波山展の成功を記念したお花が届き、会場の一画に飾られ展覧会に彩りを添えました。

Music in Museum by 出光

出光興産株式会社の主催で、9月27日は市民会館で、翌28日は市民文化公園でクラシックコンサート「Music in Museum by 出光」が開催されました。板谷波山の人生を振り返るように、人生の楽しさや悲しみを歌った名曲の数々を、ソプラノ、テノール、バリトンの3名の歌手が披露し、ピアノ、バイオリン、チェロの演奏者が美しい旋律を奏でました。

市民会館では公募による招待客1,350名が会場を埋めました。また、市民文化公園では、肌寒い天候にもかかわらず、家族連れなど多くの市民が訪れました。歌手のコミカルな演技にクラシックの固いイメージが払拭された様子で、前日同様くつろいだ雰囲気の中で楽しいコンサートが繰り広げられました。両日ともアンコールには北海道に馴染み深い「虹と雪のバラード」を出演者と観客が合唱し、会場は一体感に包まれました。

平成20年度　企画展

苫小牧市所蔵美術展 ～街をいろどるアートたち～

期間：平成20年４月26日(土)～ ６月１日(日)　　会場：苫小牧市博物館　特別展示室

市役所や市立病院、学校など市の公共施設に所蔵している美術品を一堂に集め、美術展を開催しました。作品は絵画が中心で、エコール・ド・パリの影響を受けた高畠達四郎の「風景画」や、苫小牧出身の遠藤ミマンさんの「馬と三角点」、北川豊さんの「静果物」などを展示しました。普段は市役所の応接室や学校の校長室に飾られ、市民の目に触れる機会が少ない作品などもあったため、期間中に展示替えを行い、１点でも多くの作品を見てもらえるように工夫をしました。

本企画展で唯一の彫刻であった舟越保武の「ANNA(アンナ)」は、石とは思えないほど滑らかに彫り上げられており、見学者からは「苫小牧市がこんなにすばらしい作品を所蔵しているとは知らなかった。」「もっと見られる機会を設けて欲しい」などの感想が寄せられました。

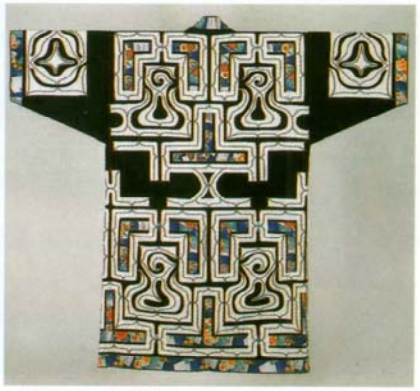
展示替えの前と後で２回見学した方や、見学した後に再び家族や友人を同伴して来るなど、何度も足を運ぶ方もおり、苫小牧市民の芸術文化への関心の高さを感じました。

平成20年度　企画展

よみがえる伝統文化 ～アイヌ文様と技、そして美～

期間：平成20年７月12日(土)～ ８月17日(日)　　会場：苫小牧市博物館　特別展示室

本企画展は財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構との共催で、アイヌ文化への理解を深める目的で開催しました。展示品の多くは財団が主催する「アイヌ工芸作品コンテスト」の入賞・入選作品で、いずれも美しいアイヌ文様が施されています。伝統的な文様が施されたカパラミㇷﾟ(木綿衣)や木の繊維で作られたアットゥシ(樹皮衣)の他、マキリ(小刀)やタシロ(山刀)、イクパスイ(奉酒箆)など、アイヌ文化の伝承を受け継ぐ作品56点を展示しました。また、テーブルクロスやタペストリー、熊や梟の木彫など、伝統的な技法を現代風にアレンジした作品からは新しい息吹が感じられ、美しい文様を作り出すすばらしい技が、現代に伝わっていることが分かりました。期間中には約1,500名の見学者があり、アイヌ文様独特の美の世界を堪能した様子でした。



(財)アイヌ文化振興・研究推進機構提供

関連行事として、８月３日(日)に白老町の岡田育子さんを講師に招き、「アイヌ文様の刺しゅう体験教室」を行い、布製のコースター作りに挑戦しました。11名の参加者のほとんどが初心者ということもあり、慣れない作業に戸惑う場面もありましたが、岡田さんの丁寧な指導のもとに作業を進めていき、美しい作品を完成させました。

全道展・苫小牧地区会員会友作品展

勇払原野の画家たち展

期間：平成21年２月22日(日)～３月29日(日)　会場：苫小牧市博物館　特別展示室

全道展・苫小牧地区との共催で美術展を開催しました。遠藤ミマンさんの「枯野」や砂田友治さんの「二人の天使と梯子」など、苫小牧にゆかりのある著名な画家たちの絵と、全道展・苫小牧地区の会員・会友の作品を23点展示しました。

通常であれば企画展には入館料が必要ですが、苫小牧にゆかりがあり、道内でも評価が高い画家の作品を集めた美術展であるため、できるだけ多くの市民に鑑賞してもらおうと、今回は特別に入場料を無料にして公開しました。

絵画だけではなく版画や彫刻も展示し、期間中に一部の作品を替えるなど、多くの作品を鑑賞できるようにしました。見学者はそれぞれの作品のすばらしさに魅せられた様子で、「作品から作者の視点や自然への想いが感じられてよかった」「丁寧に仕上げられているのがよく分かり、他の作品も見たいと思った」など大変好評でした。

こどもの日「博物館からの挑戦状」

５月５日のこどもの日に「博物館からの挑戦状」と題して、館内でクイズラリーを行いました。クイズは６問で、「縄文時代の貝塚にある貝の種類は？」「鹿肉缶詰を温めるのに必要な時間は？」など、展示をよく見ないと分からない問題を用意しました。展示室にはお助け学芸員がいて、３回まで質問することができます。はしゃいでいた子供たちも、問題を解いているうちに真剣な表情になり、展示や解説を熱心に見ていました。お助け学芸員に質問するなど、一生懸命に問題を解き、親子の参加者からは「問題を解きながら一緒に勉強できて楽しかった」と満足した様子でした。

夏休み自由研究相談会

夏休み中の７月30日と31日に博物館１階の図書コーナーで自由研究相談会を行いました。「何をしたらいいのか分からない」と研究のテーマ探しに訪れる子供や、「テーマは決まっているけど、どのように進めたらよいのか迷っている」という子供がほとんどでしたが、展示室を案内し、その中で興味を持ったことをきっかけにテーマを決めたり、ある程度内容が決まっている子供にはまとめ方や調べ方を助言したりしました。

２日間で14組の利用があり、博物館だけでなく、ウトナイ湖サンクチュアリや、むかわ町の穂別博物館とも連絡をとりあい、それぞれの子供に合わせたアドバイスを行いました。子供たちはアドバイスを参考にして、宿題に挑んでいました。

昔の暮し探検隊

昔の人の知恵と工夫を親子で体験することを目的に、今年度は４回行いました。

「洗濯とアイロンがけ」では、持参したハンカチを慣れない手つきで洗濯し、炭アイロンで仕上げました。きれいになった洗濯物を持ち帰る姿はとても嬉しそうでした。

「石臼で粉作り」では、石臼で米を挽いて上新粉を作り、石臼の仕組みについて学びましたが、昔の道具の精巧さに子供たちは驚いていました。

また、「せんべい焼き」では、昔ながらの薄い塩味のおせんべいを焼き、手作りの味に満足そうな笑顔が広がりました。「じゃがいも越冬大作戦」では、冬の間埋めておいたじゃがいもを掘り起こしました。全国で人気が高まっている越冬野菜ですが、実際に食べるのは初めてという参加者がほとんどで、想像以上の甘さに驚きを隠せない様子でした。

この行事をとおして、親子で生活の工夫を考えるきっかけになることを期待しています。

土曜体験教室

苫小牧の歴史や自然、昔の人の工夫などを、体験を通してして学んでもらうことを目的に、７回行いました。「うちわ作り」・「動物型の土製品作り」・「勾玉作り」・「干支作り」・「水引でつくるお正月飾り」・「デンプン作り」といった人気がある行事に加え、「バードコールで鳥と話そう！」という新しい行事も行いました。

「バードコールで鳥と話そう！」では、流木とネジを材料にしたバードコールを作りました。秋になると越冬のために群れる鳥は、仲間の声を聞くと集まってくる習性があります。バードコールはこのような鳥の声に似た音を出す道具で、事前にCDで音を出す練習を行い、市民文化公園にでかけました。当日はやや風があり肌寒い日でしたが、木の近くでバードコールを鳴らすとすぐにシジュウカラなどのカラ類が集まって、観察することができました。

参加者は「身近にたくさんの鳥がいるとは知らなかった。」「鳥の声にも種類があるのは面白いと思った。」など、身近な鳥との触れ合いを楽しみました。

他に「勾玉作り」では硬い石を切るのに苦労したり、「干支作り」では見本を見ながら形を整えたりするなど、短い時間で工夫をして仕上げた作品を大切に持ち帰っていました。

どの行事も多くの参加者があり「何かを作りながらいろいろな説明が聞けて、勉強にもなったし楽しかった」「家でも作ってみたい」と大変好評でした。

見学会・観察会

樽前山タイムトラベル（7月27日）

地層を見ながら苫小牧地方がどのような地形や歴史の上に成り立っているかを学習するために、NPO法人環境防災総合政策研究機構との主催で地層の見学ツアーを実施しました。参加者は33名で、事前に館内で支笏湖と樽前山の生い立ちを学習した後、植苗や錦多峰などで路頭を見学しました。北海道大学名誉教授の宇井忠英氏が火山の力や噴火災害、砂防施設の役割について解説し、参加者からは「自分が住む地域の成り立ちがよく分かった」「火山の噴火について勉強になった」と身近な自然についての理解を深めていました。

芸術探訪（8月30日）

札幌市にある道立近代美術館で、レオナール・フジタ展とコレクションギャラリーを見学しました。参加者は41名で、午前中はレオナール・フジタの多くの作品をじっくりと鑑賞していました。フランスの洋画界で成功を収めたレオナール・フジタの作風が完成されていく様子を感じ、参加者からは「もっと見たい」という声も聞かれました。午後からはコレクションギャラリーで、ボランティアガイドの解説を聞きながら見学しました。参加者は「すばらしい作品を見られてよかった」「また来年もこの行事を行って欲しい」と、一足早い芸術の秋を堪能していました。

森の観察会（8月2日）

北海道大学苫小牧研究林との共催で、研究林と林内の施設を見学するツアーを行いました。当日はあいにくの雨天となりましたが、20名が参加して熱心に身近な自然について学びました。講師は北海道大学苫小牧研究林の日浦勉林長で、研究林の学生さんも加わって解説のサポートをしてくれました。午前中は研究施設の見学と、林内散策を行いました。

はじめに、ジャングルジムと呼ばれる樹木全体を詳細に観察する設備や、樹木を上から観察するためのゴンドラなどを見学しました。

施設見学の後は「気になったもの」を集めながら、花の名前を確認したり、木の実を拾ったりして林内を散策しました。この時集めたものを午後のグループワークで披露し、持ってきた理由を話し合うなどして、身近な自然への興味や関心をより一層深めました。研究林内にある森林資料館の見学も行い、参加者からは「苫小牧で行われている研究の重要性について理解できてよかった」との感想が寄せられました。

友の会　通　信

友の会まつり

５月25日に博物館で「友の会まつり」を開催しました。会員が行事などで製作した土器や木工作品を展示し、訪れた人に苫小牧の歴史や文化について学びあう楽しさを伝えながら、友の会の活動を紹介しました。

また、この日は友の会設立20周年を記念して、市民文化公園で植樹を行いました。会員で樹木医の金田さんの指導で、雨の中傘を差しながら、しだれ桜３本を丁寧に植樹しました。参加者は「来年花が咲くのが楽しみ」と、和やかな雰囲気で作業を行いました。

餅つき大会と全国郷土の雑煮

今では珍しい石臼での餅つき大会、今回は島根県風の雑煮を作りました。会員の佐田さんの指導で、杵の使い方やこね方を教えてもらい、子供も大人も協力してつきました。つき上がった餅を食べやすい大きさに丸めたときは、上手にできない子供も必死で頑張り、大小さまざまな大きさの餅からは手作りの暖かさが感じられました。

雑煮は出汁と野菜のシンプルなつゆに岩のりを乗せて出来上がりです。残りはきな粉や大根おろしにからめて、残さずたべました。「おいしかった」、「また来年もやりたい」など、子供たちも満足した様子でした。

平成21年度　博物館行事予定

企画展・特別展

企画展　「アンモナイト～そのふしぎと魅力～」（４月25日～６月７日）
特別展　「縄文美の極み～亀ヶ岡文化～」（７月11日～８月23日）
企画展　「春をまつ生き物たち」（２月６日～３月21日）

観察会・見学会・体験事業

樽前山タイムトラベル（7/18）　フィールドミュージアム（10/31）　芸術探訪（11/14）
昔の暮らし探検隊 ……「お手玉で遊ぼう」「樽前まんじゅう作り」「石臼で粉作り」「凧あげで遊ぼう」
土曜体験教室 ……「うちわづくり」「土偶づくり」「草木染に挑戦」「火おこしに挑戦」「絵馬づくり」「マッチ箱の小物入れづくり」「羊毛で作るマスコット」「羽根ボールペンづくり」

※行事の内容や日程は変更する場合があります。

苫小牧市
博物館だより

平成21年3月31日発行・第58号
編集・発行：苫小牧市博物館　〒053-0011 苫小牧市末広町3丁目9-7
電話：0144(35)2550～2552　FAX：0144(34)0408
URL：http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutukan/